

北方四島交流事業理解促進セミナー (中標津町) 開催結果報告書

(目次)

I	開催概要	1
II	講話要旨	3
1	テーマ：「北方四島交流事業の現状」 講師：野上 智宏（北方四島交流北海道推進委員会専門員）	
2	テーマ：「四島訪問での共生の途（みち）」 講師：館下 雅志（元島民2世（国後島））	
3	テーマ：「通訳者からみた四島交流」 講師：垣内 与（ロシア語通訳者）	
III	アンケート結果	6
IV	資料	12
1	広報資料（チラシ（開催要領を含む））	
2	講話録・講話資料（略）	

令和6年3月

(公社)北方領土復帰期成同盟
(北方四島交流北海道推進委員会)

I 開催概要

1 目的

北方四島交流事業の理解促進を図る一環として、北方領土隣接地域及び交流の窓口として当初から連携・協力を頂き事業を展開してきた根室管内中標津町において、関係者や一般の方々に北方四島交流に対する関心を持ち続け理解を深めて頂くため、セミナーのほか、併せて写真展示を行った。

2 共催 中標津町

(公社) 北方領土復帰期成同盟 (北方四島交流北海道推進委員会)

3 日時 令和5年12月16日(土) 13:00~16:30

4 場所 中標津経済センター(なかまつぶ) コミュニティーホール(2F)

5 テーマ 『まずは知ってみよう北方領土【四島との交流】』

6 講話【テーマ及び講師】

四島への渡航やロシア人住民との交流に参加した方から、実体験を踏まえて、各々の立場・視点に立った講話等を頂いた。

- ・北方四島交流事業の現状【北方四島交流北海道推進委員会事務局 専門員 野上 智宏】
- ・四島訪問での共生の途(みち)【元島民2世(国後島) 館下 雅志】
- ・通訳者から見た四島交流【ロシア語通訳者 垣内 与】

7 参加対象及び参加者数

四島交流事業の関係者、一般の方(中標津町外の方も可)を対象に、38名参加

※関係者: 交流協力団体、ホームビジット受入家庭等

8 写真展示

(1) 日時 令和5年12月16日(土)~17日(日)

(於: 中標津町総合文化会館(しるべっと) 町民ホール(1F))

(2) これまでの記録写真を展示し四島交流の様子等を紹介した。

(展示写真: 58枚(A3判)、プチガイド、洋上慰霊パネル、動画上映)

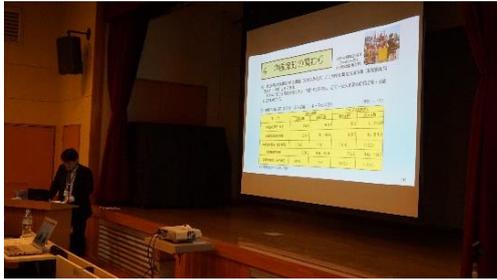
(3) 写真展示観覧者: 293名(内訳: 12/16(土) 132名、12/17(日) 161名)

9 総括・所感

参加者からは、元島民2世の方々の取組の紹介に関連し、「交流事業の実態について知る機会となった」、「通訳者の立場、視点での臨場感のある話やグローバルな話を聞くことができ有意義だった」、「四島交流事業があることは知っていても、その実体を知る機会は少ないので、様々な体験を聞くことが興味深かった」などの声が寄せられた。

主催者としては、当初の目的どおり、参加者の方々に北方領土問題や四島交流事業の目的、役割について理解を深めていただけたのではないかと考えている。

(セミナー及び写真展示の様子)



道推進委員会：野上専門員



講演を聞く参加者



ロシア語通訳者：垣内与氏



ロシア語通訳者：垣内与氏



元島民2世：館下雅志氏



元島民2世：館下雅志氏



写真展示準備の様子



写真観覧をする来場者



写真観覧をする来場者



洋上慰霊の動画を観る来場者

II 講話要旨（講話の順による）

1 テーマ：「北方四島交流事業の現状」

講師：野上 智宏（北方四島交流北海道推進委員会）

〔講話要旨〕（講演資料を踏まえ事務局で整理）

（自己紹介）

・2010（平成22）年、北方四島交流北海道推進委員会に採用され、以来交流事業に事務局として携わっており、こうした経験を踏まえ、事業の説明を行う。

（四島交流事業の概要）

・北方四島交流事業は、領土問題解決のための環境整備の一環、外交交渉を後押しするために行っているもの。

・ゴルバチョフ大統領から提案（1991年）があり、両国政府間でつくった枠組みに基づき、日本人とロシア人住民のお互いの理解を深め、領土問題解決につなげるため、1992年にスタートした。

・北方四島への訪問は、四島交流の他、自由訪問、北方墓参の枠組みがある。

・また、事業実施のために、前年の反省や課題、次年度計画について実務者レベルで意見交換、調整（代表者間協議）を行う。

・訪問事業では、ロシア人住民との意見交換会・交流会やホームビジットなどを行う。（具体例で説明）

また、受入事業では、文化・スポーツ交流や意見交換などを行う。（具体例で説明）

（中標津町との関わり）

・中標津町では「道推進委員会」への参画をはじめ、当初から訪問・受入双方に協力を頂き、延べ400人の町民が訪問、また、延べ1,260人のロシア人住民を受入。

・町内の各種団体・個人の方から様々な形で協力を受けた。訪問では9団体、受入では約50団体やホームビジット受入家庭は約130家庭の協力。町立中標津病院が医療支援等。

・四島交流により、当方実施の事業でこれまで13,669人の日本人とロシア人住民が相互訪問。訪問と交流の積み重ねにより、誤解や不安が払拭され、信頼関係に基づく深い交流が出来、相互理解の増進が着実に図られてきた。四島在住ロシア人の発言例紹介。

（四島交流事業を取り巻く状況）

・残念ながら、2020年以降事業が実施できず、日ロ関係は厳しい状況であるが、政府の基本方針に変わりはなく、事業再開は今後の日ロ関係の中でも最優先事項。

・このような情勢でも、四島住民による日本人墓地の草刈などのように、良好な関係が維持されているのは、交流関係の皆様の長年のご尽力の積み重ねがあるからだと思っている。

・私どもとしては、情勢が改善された際に事業をいち早く再開できるよう、関係機関と連携し対処しているところであり、今日参加いただいた皆様には、これからも北方領土問題やビザなし交流に関心を持っていただき、今後もこのような機会にはご参加いただきたい。

（質疑応答）

・なし。

2 テーマ：「四島訪問での共生の途（みち）」

講師：館下 雅志（元島民2世（国後島））

〔講話要旨〕（講演資料を踏まえ事務局で整理）

（自己紹介）

・私の母親は国後島古釜布で生まれ 14 歳まで暮らした。祖母は国後島で豆腐屋、祖父は林業を営んでいた。ビザなし交流には、交流開始 2 年目の 1993（平成 5）年に初めて参加した。＜平成 5 年国後島訪問の際の写真等により当時の様子や感想を説明＞

（四島交流との関わり）

・訪問後島を離れる際に、関係者の方が四島側住民に「この交流を続けると島はよくなる」と語っているのを聞き、私は「この交流を続けていくことが返還に結びつくことなんだ」と思った。

・しかし、訪問の際の「対話集会」を続ける中で、日本人側は「日本の故郷だから返せ」、ロシア人住民側は「島のことはモスクワの話だ」という意見で進展がみられない。「このままではいけない」と思い、根室管内の元島民後継者が集まり、「千島歯舞諸島居住者連盟根室管内青年部連絡協議会」を平成 14 年に立ち上げ、関係先と今後の取組について相談した。

（後継者（元島民 2・3 世）による継続的な取組み）

・そうして、一定のテーマをもって継続した対話・交流を進めようと考え、2006（平成 18）年の国後島訪問の対話集会の際に、「共に暮らすためには何が問題なのか」をテーマとして持ちかけて、後継者や大学生等 30 名程とロシア人住民 25 名程で意見交換を行ったところ、15 の問題（課題）が出てきた。

・これらの問題について、意見交換を続けることとし、2 年目の訪問の際は、自然環境、エコロジーをテーマに双方で意見を出し合った。こうして、私たちの継続的な、これまで続く取組が始まった。

・3 年目は、教育問題と健康・医療を、4 年目は、インフラや法制度をテーマに意見を出し合った。

・5 年目（平成 22 年）、私どもは、まとめをしたいと国後島側へ伝えていたが、島側の様子が変わり「教育の問題」との提案があり、その意見交換を行った。

・とはいえ、4 年間の意見交換で積み重ねたものはまとめようと考え、国後島側とのやり取りを踏まえ、私たちなりに、「共住への途」として冊子に取りまとめた。

・国後島側と 5 年間話し合いを続けた結果、信頼関係ができ、一緒に住むことができるのではないかと希望をもった。文化、生活習慣が異なり、社会ルールや法制度をはじめ多くの課題はあるが、協力して生活する社会をつくる可能性を見出すことはできるのではないか。この冊子では、こうした思いから、共住の姿を段階的に描いている。

・現状ではその第 1 段階までは行っているような気がするが、残念ながらロシアのウクライナ侵攻により、故郷に行けなくなった。

・元島民が 1 日でも早く故郷の地を踏めるようにして頂きたい。そして、ビザなし交流や自由訪問を再開し、交流を深めながら、1 日も早い返還を願っている。

（若い世代への期待）

・根室高校や中標津農業高校の生徒が一緒になって、出前講座などの事業を行うと聞き、大変うれしい。

・多くの若い人がこれからの運動を引き継いでいってほしい。私たちもこれからも北方領土が返るまで頑張りたい。

（質疑応答）

・なし

3 テーマ：「通訳者からみた四島交流」

講師：垣内 与（ロシア語通訳者）

〔講話要旨〕（講演資料を踏まえ事務局で整理）

（自己紹介）

- ・1994年（平成6年）にウクライナ留学から帰国後、旅行会社勤務を経て、2001年（平成13年）にロシア語通訳業を開業し、同年から中標津町の「ロシア語講座」の講師を9年間務めた。
- ・また同年から、先輩通訳の紹介でビザなし交流の仕事に従事した。
- ・交流事業から段々と専門家交流に軸足を移していき、哺乳類研究や地震火山や歴史文化研究などに同行し、いろいろな所に行った。（写真で状況等を紹介）

（通訳者から見たビザなし交流）

- ・ビザなし交流に携わって思ったこと。1点目は、「北方領土は近くて遠い」とよく聞かすが、北方領土と根室は世界でも有数の住民同士の相互理解が進んだ地域なのではないかと思う。
- ・ロシアと接する地域は、バルト海沿岸のカリーニングラードとポーランドなど多くあり、買い物での行き来はもとより住民同士の交流もあるけれども、ビザなし交流のように、ここまで深めたものはあまりみることがない。
- ・北方領土と道東地域との間には、政治の世界とは違う、人間同士の等身大での血の通った交流があると思う。だから、義理の親子のような関係を結び、交流が進んでいる。また、カズワソンの事件の際、四島の人から親切なサポートがある。
- ・2点目は、そうした交流に携わるほどに、領土問題、その上で行われるビザなし交流はかなりデリケートと感じるようになった。向こうのお国柄、トップに立つ人の考え方で影響を受ける。東日本大震災などいろいろなことを乗り越えてこられたが、ウクライナ侵攻に伴い事業は中止となってしまった。
- ・3点目、1点目と重なるが、専門家交流、研究者同士での交流は、続いているはずだと思っている。例えば、渡り鳥の調査では、双方で飛来数の調査は続けられていると思う。
- ・ところで、北方領土は、研究者にとっては手つかずの対象がいろいろあり、すごく魅力的な地域であるが、非常に制約が多い。やっと渡航し調査してもその成果を論文として公表が難しい。このため、研究意欲が萎むのを目にしてきた。研究を通じて日本のアピールにつながるから、学術問題に限らず、残念だ。

（四島交流における通訳の問題）

- ・北方領土問題等を反映し、また日本人側、四島住民側、双方の通訳を担うことになるので、通訳上の問題はいろいろある。
- ・現状認識に係る問題として、例えば、北方領土については、日本側は「不法占拠されている」、四島側は「解放した」と求める。
- ・2014年のクリミア併合を「併合」と訳すと、「併合なんてとんでもない」と四島側はすごく怒る。
- ・地名の問題として、日本語で「紗那」はロシア語では「クリリスク」、「古釜布」は「ユジノクリリスク」、「穴潤」は「クラボザボーツク」になり、代表者間協議で日本語名を使用すると、四島側は「そんな地名はない」と反論する。
- ・また、従事する通訳者について、経験や後継者の育成も大事だが、30年間続いてきたのだから、世代交代も進めるべきだと考えている。

（最後に）

- ・ウクライナ問題については、私見であるが、「長期化必至」だと考えている。
- ・再開への道は険しいと思うが、できるだけ早く交流が再開され、また続けば良いと祈っている。

（質疑応答）

- ・なし

Ⅲ アンケート結果

1 アンケート概要

(1)目的

セミナー参加者の年齢、職業や、参加のきっかけ、感想、開催方法などについてお聞きし、今後の取組の参考とするために、アンケート調査を実施した。

(2)調査方法

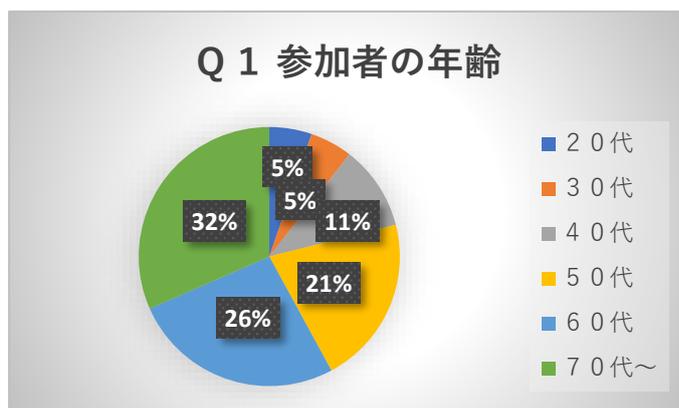
セミナー会場で調査票を配布・回収した。(設問は選択方式(一部複数回答あり)、記述式)

(3)回答率

参加者：38名中、19名が提出(回収) (回収率：約65%=回収19/対象参加者29)

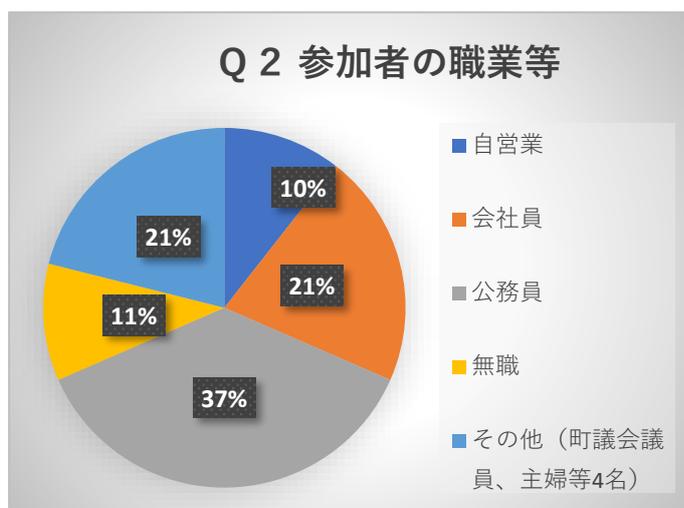
2 調査結果

Q1 あなたの年齢を教えてください



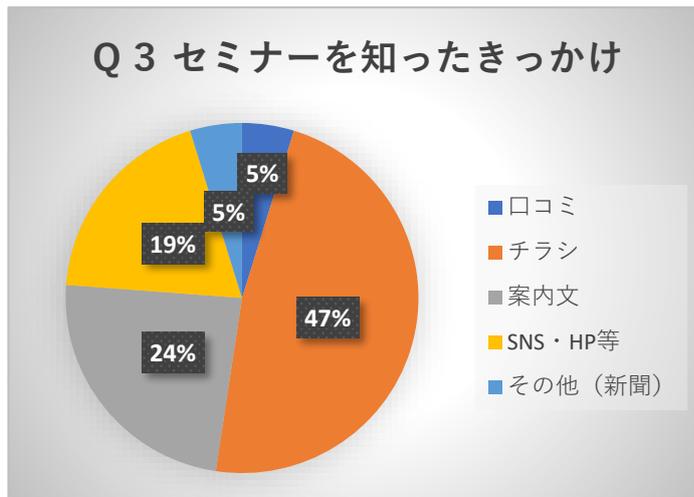
20代、30代の若年層が少なかった。
(全体の10%)

Q2 あなたの職業等を教えてください(複数回答可)



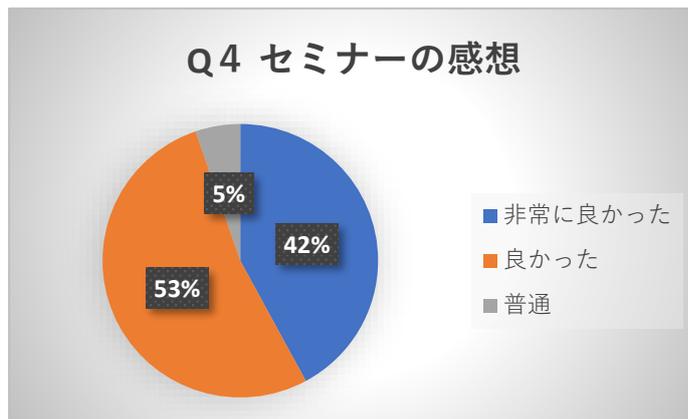
休日開催でもあり、公務員(37%)や会社員(21%)で6割弱を占めた。
なお、元島民等が4割弱(7名)を占めた。

Q3 このセミナーを知ったきっかけは何ですか（複数回答可）



チラシで知った人（47%）が最も多く、案内文（24%）、SNS・HP等（19%）と続いた。

Q4 このセミナーの感想をお聞かせください



非常に良かった（42%）と良かった（53%）と合わせて、全体の約9割以上（95%）を占めた。

●非常に良かったに○をつけた参加者の感想の理由

（講演内容について）

連盟青年部の努力と今後の方向性が理解できた。（70代・会社役員、町議会議員）

混住、共住に向けた住民レベルでの協議があったという事実と内容を知ることができた。

（50代・公務員）

通訳の立場、視点での臨場感のある話を聞くことができた。（50代・公務員）

講師の方々のざっくばらんな話がおもしろかった。（20代・公務員（元島民3世））

共住社会に向けて具体的な課題の検討・意見交換が行われていたことは知らなかったのも、興味深かった。（20代・公務員（元島民3世））

(北方領土問題・四島交流について)

改めて交流事業の振り返りができた。(50代・公務員)

根室市民なので、四島交流事業が存在し、現在中断していることは知っていても、なかなかその実体について知る機会は無かったので、本日の様々な体験をお聞きできて興味深かった。

(50代・無職)

(全体について)

一般の人が知らないことが説明された。(70代・会社役員、町議会議員)

告知をもっとしてほしい。告知不足だったと思う。(60代・会社員(元島民2世))

私にとっては非常に良かったと思っている。両親が活着しているうちに、もっと島の話をお聞きしておけば良かったと思っている。(70代・自営業(元島民2世))

●良かったに○をつけた参加者の感想の理由

(講演内容について)

通訳者からの視点がとても新鮮だった。(50代・公務員)

通訳者の講話はおもしろかった。(30代・公務員)

通訳者の生の声が聞けて良かった。(40代・会社員)

(北方領土問題・四島交流について)

北方四島交流の歴史を聞いて大変勉強になった。(60代)

交流事業の歴史を振り返ることができた。(60代・会社員(元島民2世))

交流事業とは何かわかることができたのが良かった。(30代・公務員)

自分達がやってきた、参加した交流事業を再確認できた。(60代・公務員(元島民2世))

コロナ・ウクライナ問題が起因して全ての事業が中止している中で、これまでの事業にふれられたのは、参加者には北方領土問題含めて理解を深めていただいたと思う。

(70代・(元島民2世))

(全体について)

四島の現実を知ることが大切と思う。(70代・自営業)

●普通に○をつけた参加者の感想の理由

(全体について)

日本側の意見だけでなく、四島の人意見も聞きたい。(60代・主婦)

Q5 今後同じようなセミナーが開催される場合、他に取り上げてほしいテーマ（演題等）や内容があればお書きください

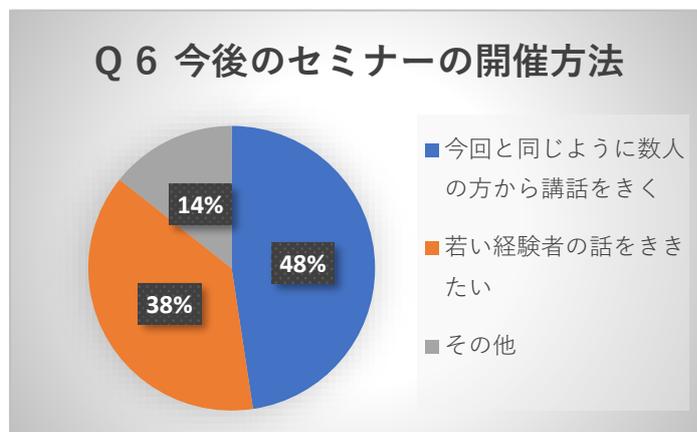
若い人達が興味を持つテーマの検討が必要とする一方で、ロシアとの交渉事情や今後の方向性などを聞きたいという意見があった。

(テーマ (演題等) について)
ビザなし交流再構築提言書について、根室市に提出のものとしては、共同経済活動の意義、特にあちらの自治体とこちら側が、例えばロシア本国からくるトロール漁船に共同して対抗できるような運命共同体なのだという自覚醸成を見すえた取組の推進などについて議論していただけたらと思う。(70代・会社役員、町議会議員)
若い人達が興味をもって聴きにきてくれるテーマは何かな・・・と考えているが。 (50代・公務員)
今後の国の方向性を知りたい。(60代・会社員 (元島民2世))
実現可能と思われる事柄について、説明・議論が行われることを望む。(70代・酪農業)
ウクライナ問題の現状と北方四島交流事業に与える影響。(30代・公務員)
いつまで交流等が再開できない日が続くかわからないが、現状(ロシアとの交渉事情等)を少し説明しても良いのでは。(外務省や内閣府等と協議してみてもは) (70代・(元島民2世))

(講師について)
通訳者の話は盛り込んだ方が良いと思う。(継続して)(40代・会社員)

(その他の要望)
具体的な成果が見えないし、島は1mmも動いていないが、この運動は続けていかないといけないと思う。(60代・主婦)

Q6 今後セミナーを開催する場合、どのような方法がよいかお聞かせください (複数回答可)



約半数(48%)が今回と同じように数人の方から講話をきくと回答し、次に若い経験者の話をききたい(38%)という意見が多かった。

●その他に記載した参加者の記載内容

(その他、セミナー開催に関する要望)
現在、完全に停止している交流を復活させるにあたり、高田屋嘉平のような経済人が地域から生まれてきて欲しいと願う。そんな視点のセミナーを聞きたい。 (70代・会社役員、町議会議員)
高校生をまじえてパネルディスカッション。(50代・公務員)
現実の話が聞きたい。(60代・主婦)

Q7 今回のセミナーについて、ご感想があれば自由にお書きください

(セミナーについて)
関係者のみの出席が目立った。理解促進セミナーであるならば、一般住民の参加をもっと募るべきだったと思う。現状では交流事業が難しいのもわかる。これまでの活動を振り返っても仕方ないと思うので、これから何をすべきか、国に何を働きかけているのか説明を加えた方が良いと思う。(30代・公務員)
中標津での開催、ありがとう。(50代・公務員)
今回の内容を広く広報してほしい。(60代・会社員(元島民2世))
出席者が少ないように思うので、町民の参加の方法を検討していただきたい。 (70代・酪農業)
今回の参加者も少なかったのが、残念。もっと広く積極的に周知をしては。初めて参加した自分が言うのも何だが、セミナーに参加して良かった。(60代)
良かったと思うが、何とかロシアと会話を再開して、早く交流事業の復活を望みたい。 (60代・会社員(元島民2世))
様々に地域住民に問題提起していくことが大切である。(70代・会社役員、町議会議員)
垣内さんのプレゼンでは、四島交流に限らず、グローバルな話が聞けてすごく良かった。 (60代・公務員(元島民2世))
セミナーは良かったが、写真の展示の場所が一緒の方が良いと思う。 (70代・無職(元島民2世))
現在の具体的な話が聞きたい。垣内先生の話はおもしろいと思った。(60代・主婦)



まずは知ってみよう
北方領土
 【四島との交流】

主催（共催）
 （公社）北方領土復帰期成同盟、中標津町

【北方四島交流事業理解促進セミナー】

1. 北方四島交流事業の現状
道推進委員会 野上 智宏 氏
2. 四島訪問での共生の途(みち)
元島民2世 館下 雅志 氏
3. 通訳者からみた四島交流
ロシア語通訳者 垣内 与 氏

参加無料

12/16(土)

13:00~16:00

**中標津経済センター
2階コミュニティホール**

※事前申し込み不要（当日は直接お越しください）

【問い合わせ先】 中標津町役場政策推進課 TEL0153-73-3111（内線327）

北方四島交流事業の理解促進セミナー[中標津町]

1 目的

北方四島交流事業は、平成4年度の事業開始以降、領土問題解決のための環境づくりの一環として、日本人と四島在住ロシア人との間の相互理解の増進を図ってきましたが、令和2年度以降事業を実施できておらず、四島交流等事業※の再開は今後の日露関係の中でも最優先事項とされています。

この事業は、北方四島交流事業の理解促進を図る一環として、北方領土隣接地域及び交流の窓口として当初から連携・協力を頂き事業を展開してきた根室管内中標津町において、写真の展示やセミナーを行い、関係者や一般の方々に北方四島交流に対する関心を持ち続け理解を深めて頂くとするものです。

※四島交流等事業：北方四島交流（訪問・受入）、北方墓参、自由訪問を指す

2 テーマ

『まずは知ってみよう北方領土【四島との交流】』

3 共催

中標津町

(公社)北方領土復帰期成同盟(北方四島交流北海道推進委員会)[主管]

4 内容

- (1) 写真の展示 これまでの記録写真を展示し四島交流の様子等を紹介
- (2) セミナー 四島への渡航やロシア人住民との交流に参加した方から、実体験を踏まえて、各々の立場・視点に立った講話等を頂き、参加者との質疑応答・意見交換を行います

- ・北方四島交流事業の現状 講師：道推進委員会 専門員 野上 智宏 氏
- ・四島訪問での共生の途(みち) 講師：元島民2世(国後島) 館下 雅志 氏
- ・通訳者からみた四島交流 講師：ロシア語通訳者 垣内 与 氏

5 日時・場所

催事名	日時	場所
セミナー	令和5年12月16日(土) 13:00~16:00	中標津経済センター(なかまっぶ) 2階コミュニティホール
写真展示	令和5年12月16日(土) 9:00 ~12月17日(日) 16:00	中標津町総合文化会館(しるべっと) 1階町民ホール

6 対象

四島交流事業の関係者、一般の方(中標津町外の方も可)

※関係者：交流参加協力団体、ホームビジット受入家庭、住民交流会参加者等

7 その他

セミナーの様子の写真等については、主催者のホームページへの掲載や関係機関への提供等を行うことがありますので、ご了承願います。